令和４年度瀬戸内市防災マップ作成モデル事業成果報告

令和５年５月１４日（日） せとうち防災リーダー フォローアップ研修



磯上地区自主防災会
瀬戸内市

瀬戸内市防災マップ作成モデル事業の目的

事業の目的 1

自主防災組織の育成・活性化

地域の災害特性を認識するとともに、自主防災組織を育成・活性化させるため、防災マップの作成を実施する自主防災組織の取り組みを支援する。

手引きの完成

『防災マップを作ろう！瀬戸内市防災マップ作成の手引き（案）』をモデル的に活用し、事業成果を踏まえて手引きの完成を目指す。

事業の目的 2

モデル事業の流れ

③防災マップづくり（第2回 後半）

まち歩きで確認した情報を地図に落とし込みます。あわせて、ハザードマップを活用しながら災害想定を書き込むなど、住民自身が地域の防災情報を確認できるように工夫しましょう。



手引き完成！

モデル事業の成果を反映。
市内自主防災組織に配布します。

マップ完成！

完成したマップは地区の集会所に掲示したり、清書して住民に配るなどして広めましょう！

②防災まち歩き（第2回 前半）

地域を歩きながら、地図に情報を書き込んだり、写真を撮ったりしながら、地域の資源や危険を確認します。



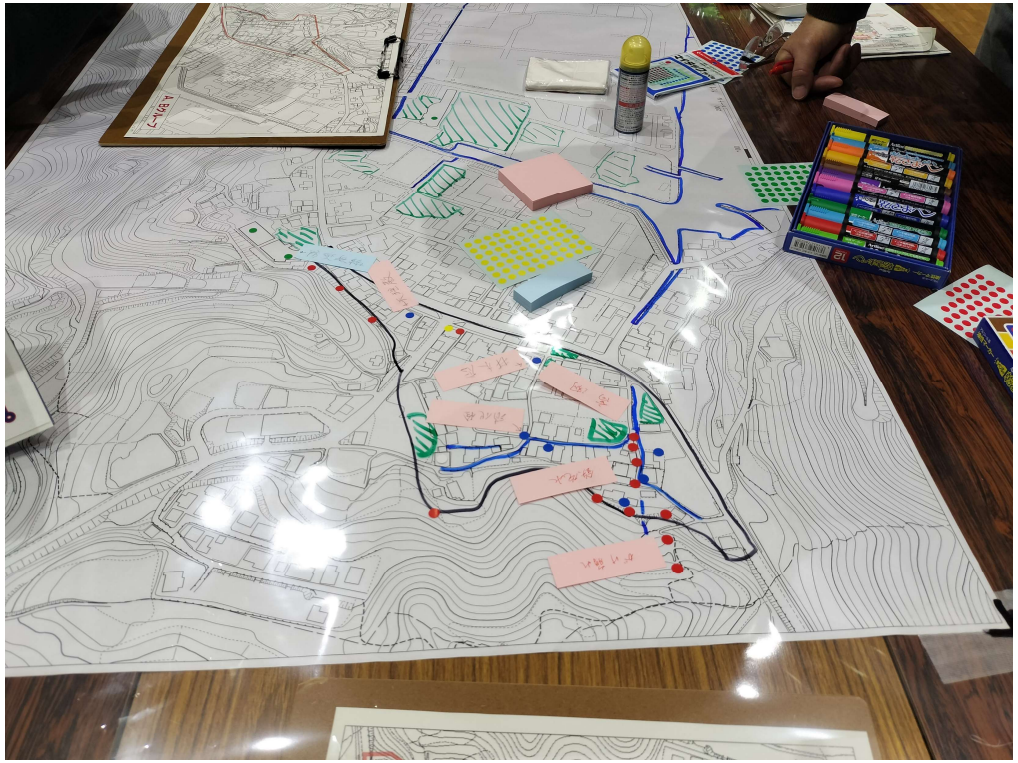
①災害図上訓練DIG（第1回）

「災害図上訓練DIG」は、参加者が地図を囲み、地域の情報を書き込みながら行う訓練です。まずはお互いに知っている情報を使って防災対策を検討し、意識を高めましょう。



災害図上訓練DIGとは





災害図上訓練

DIG

Disaster　災害

Imagination　考える

Game　いろいろやってみる

防災マップとは

防災マップ…地域の**資源**と**危険**を一枚の地図に書き込んだもの。

資源　学校や公共施設、公園などの避難場所・防災資機材置場・消火栓・防火水槽　など。

危険　浸水想定区域、土砂災害危険区域、水路、行き止まりの道、せまい道、過去の被災場所　など。







災害時に、すばやい避難行動や救助活動を行うためには、**普段から地域の危険個所や防災情報を把握し、住民どうしで共有しておく**ことが大切。

防災マップづくりの目的

自助の力を高める

1

防災マップづくりの過程で、住民の皆さん自身が、災害が発生した場合の行動や平常時に必要な取り組みについて学ぶ。

共助の力を高める

2

お互いの知識や過去の経験を出し合いながら防災マップづくりを進めることで、住民同士のコミュニケーションを促進し、地域防災力を向上させる。

★ 防災マップづくりは、地域の防災情報を知るだけでなく、**住民同士の交流の機会**となり、**防災意識の向上や住民相互の助け合いの意識の醸成**につながる。

瀬戸内市長船町磯上地区の概要

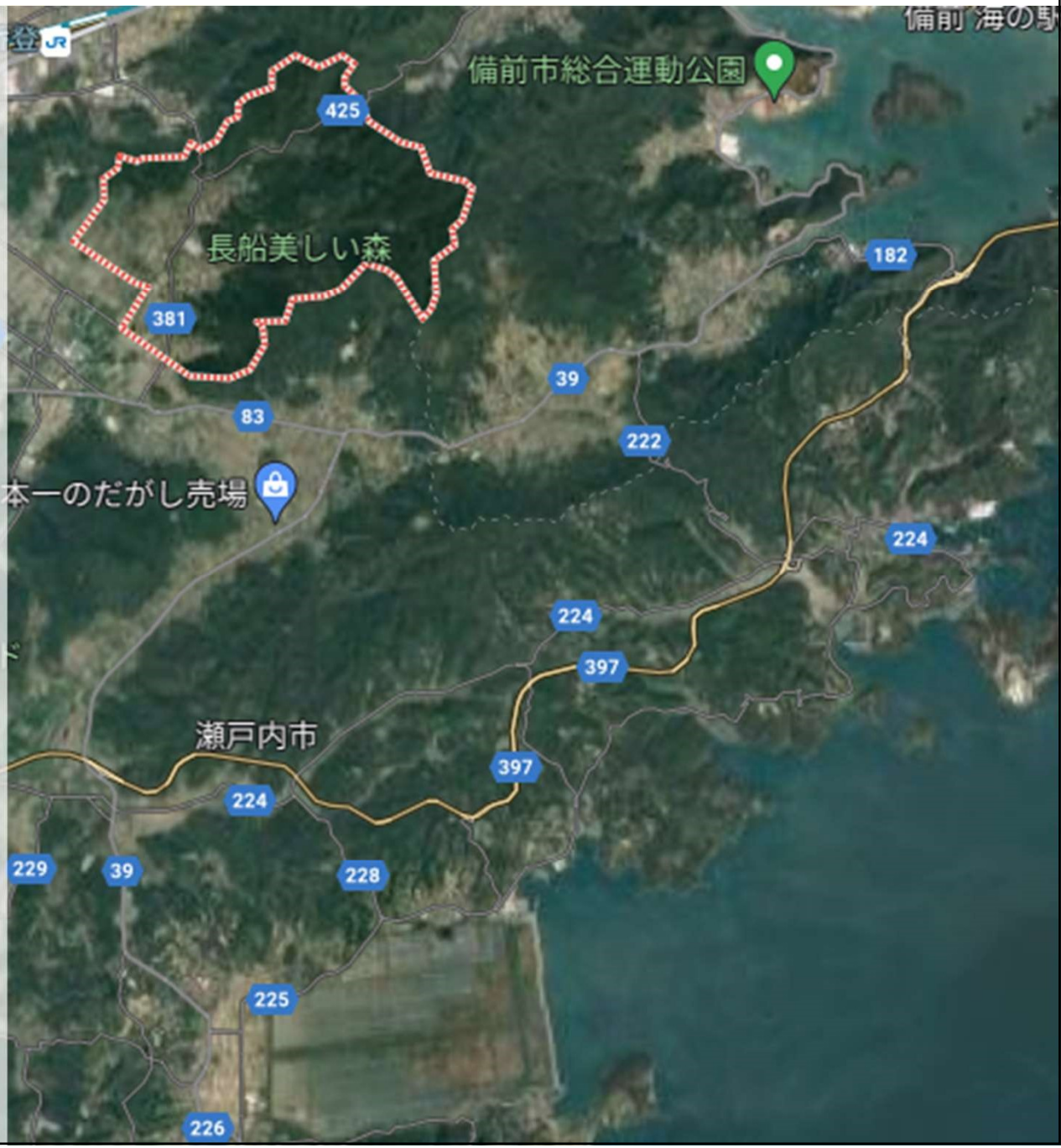
位置：市北部、備前市に隣接

人口：707人（令和5年3月31日現在）

ハザード：洪水、土砂災害、地震

自主防災組織認定年度：平成26年
（大塚、柏山、グリーンタウン、油杉、
山田、西岡の6自治会で構成）

【応募動機】
役員の交代や新型コロナウイルス感染症の拡大等により活動が休止していたことから、改めて地域住民の防災意識を高め、今後の自主防災活動のきっかけとするため。



第１回　災害図上訓練DIG

日時：令和5年1月28日（土）　10:00～12:00

概要：4地区（大塚・グリーンタウン、柏山、油杉、山田・西岡）に別れて
DIGを実施。地域のハザード、資源等を地図上に書き込んだ後、
台風による洪水を想定した自主防災組織の活動を検討。





第１回　災害図上訓練DIG





長船町磯上地区では、過去に水害による被害経験していたため、水害をテーマにDIGを行いました。

DIGでは、ハザードマップの想定浸水範囲だけでなく、過去の水害歴も書き込み、参加者どうしで当時の様子を振り返ることができました。



磯上地区自主防災会　髙原会長

第2回　防災まち歩き＆防災マップづくり

日時：令和5年2月18日（土）　9:30～12:00

概要：5地区（大塚・グリーンタウン、柏山、油杉、山田、西岡）に別れて防災まち歩き・防災マップづくりを実施。

【当日のスケジュール】

9:30～10:00（30分）	**まち歩きの目的と注意事項の説明** ・参加者の役割分担 ・まち歩きルートや点検項目の確認
10:00～11:15（75分）	**グループに分かれてまち歩き** ・縮小地図・チェックシートをもとに危険個所等を確認 ・気になる箇所はカメラで撮影
11:15～12:00（45分）	**まち歩き結果の整理（防災マップづくり）** ・会場作業用の地図に結果を記入 ・気づいたことなどについて意見交換

第2回　防災まち歩き＆防災マップづくり

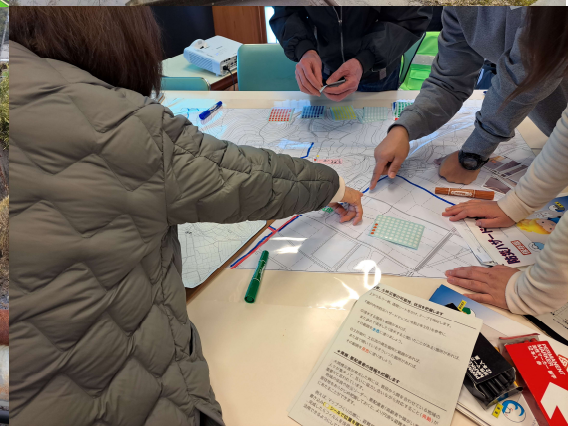










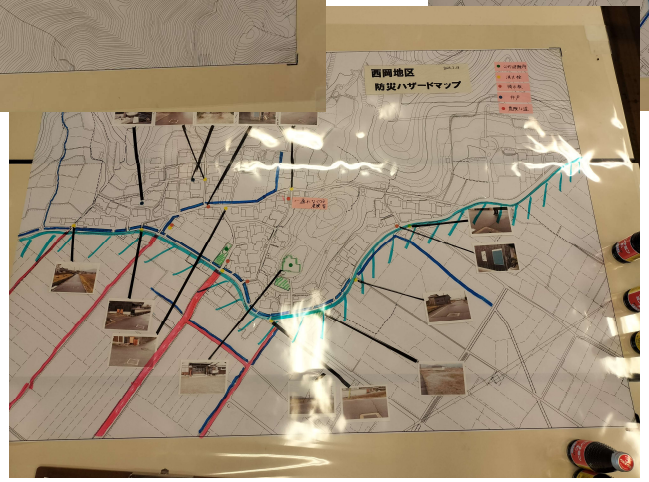



第2回　防災まち歩き＆防災マップづくり











防災まち歩きでは、過去の被災場所などを確認しました。参加者どうしで情報を共有する良い機会となりました。
また、事前に役員会で打ち合わせを行ったことで、まち歩きコースや重点確認項目、地図の縮尺など、ひとつひとつ自分たちで確認することができ、納得のいく防災マップづくりの取り組みになりました。



磯上地区自主防災会　髙原会長

ふりかえり・今後の活動について

　モデル事業を要望したものの、ここ数年は自主防災会が休止している状態だったので、
参加者が集まるかどうか不安もありました。しかし、６自治会すべてが取り組みに参加してくれたことで、今後、磯上地区全体として活動していくうえで非常に大きな意味があったと思います。参加者も予想以上に集まり、積極的に取り組んでくれて、大変よいコミュニケーションの機会となりました。
　また、地区の女性が定期的に集まって体操をするサロン会があるのですが、サロンのメンバーのうちの一人が防災マップづくりに参加してくださっており、取り組み後にサロン会でもまち歩きを行ってくれるなど、それぞれが取り組みを広げていってくれています。

　作成した防災マップは地区に掲示するほか、市の補助金を活用して清書し、冊子化して各戸に配布する予定です。
　また、完成した防災マップを活用して、７月１日のクリーン作戦において、清掃活動をしながら各地区で消火栓や格納庫の点検も計画しています。

　今回の取り組みをきっかけとして、これまでできていなかった防災倉庫の周知や資機材の点検、避難訓練、祭りの振るまいを兼ねた炊き出し訓練など、様々な自主防災活動を展開していきたいと思います。



磯上地区自主防災会　髙原会長

防災マップの活用方法

①家族防災会議に活用する

完成したマップは地域の公会堂に掲示したり、清書して配布するなどして、地域に広く共有し、**各家庭の防災対策**に役立てましょう。

②地域の定期点検に活用する

防災マップを活用して、**地域内の危険個所等を定期点検**しましょう。また、必要に応じて、**防災マップの内容を更新**しましょう。

③防災訓練に活用する

防災マップを、地域で実施する防災訓練に活用しましょう。

【例】 避難訓練を実施する場合の避難経路を検討する、消火訓練を行なう場合に消火栓の位置を共有する、地震発生時の各班ごとの集合場所（安全な広場など）を選定する、など

④要配慮者への支援体制づくりに活用する

要配慮者の所在を確認し、避難先や避難支援者の選定に活用する。

※防災マップに落とし込む際には個人情報の取り扱いに注意すること



補助金を活用して防災マップを作成する

【新規】自主防災組織活性化促進事業補助金



自主防災活動促進事業

防災訓練や研修会等の自主防災活動に係る費用を補助

上限額：5万円



防災資機材整備促進事業

防災資機材の整備に係る費用を補助

上限額：8万円



学区等連携促進事業

学区等の防災体制の整備・強化に係る費用を補助

上限額：20万円



防災マップ作成促進事業

地域独自の防災マップを作成する事業に係る費用を補助

上限額：5万円

※事業の実施前に、市に補助金交付申請書を提出する必要があります。
※補助金を活用するには、自主防災組織として認定を受ける必要があります。
※本補助金は、令和5年度から令和7年度までの3年間限定です。